

専門学校 沖縄ブライダルモード学園 ファッションデザイン科2年 砂川 五月さん(八重山農林高校 生活科学科卒業)

ファッションを学ぶため本島へ 次の目標は東京です！

1年生の頃からプロやアマチュアが参加するコンテストで入選を果たし、自分の表現力や技術を高めている砂川さん。取材当日は秋に行われる琉球ファッションデザイン選手権のデザイン画の提出日。

「高校の頃と一番変わったことは、社会人になるためファッション業界でプロの一員となるための準備期間が、今の学生生活だと思っています。基本的な時間を守ったり、体調管理を心掛けています。現在の目標は東京で就職したいと考えているので、県外のインターンシップ先：もちろん、就職先候補をさがしている真つ最中です。」

就職活動には自分の作品ファイルが必須となるが、彼女の

ファイルはとても良くできていて、作品を作つて満足するだけでなく、それを相手に魅せるための努力も惜しまないのが、とても印象的なのだ。

春に行われた修了作品展では展示だけでなく、自ら作ったアクセサリーを展示・販売。その売り上げを率先して東日本大震災の義捐金に充てた事も彼女のひとりの魅力の一つだ。

訊くとアクセサリーは沖縄市内のお店に商品として卸しているとのこと。きつかけは、自作のアクセサリーを身に付け買物に出掛けた時、偶然にも出展していたCandiceのショッポオーナーに声をかけてもらった。現在はKGA(コサゲートアパートメント)の一角でも販売中。運を引

き寄せるのも彼女の才能のなせる技なのかもしれない。アクセサリーは進学ガイドダンスにて学園担当者名札として身につけているので、ぜひ見かけたら声をかけてほしい。

この夏は島には戻らず、学校でのイベントに積極的に参加する予定。8月には自らの作品と共にステージショーにモデルとして活躍する姿も見られるようだ。

親元を離れ、アルバイト⊕奨学金(学生支援機構)を利用し、女子寮での一人暮らしをするしっかり者の彼女だが、気持ちが落ち込んだ時は友達と集まって楽しく過ごしているとのこと。同じ境遇の仲間がいる事、心強さ、家族の大切さも改めて感じる事ができたという。

色彩検定・パターンメイキング検定・洋裁技術検定・ファッション販売能力検定など数々の検定を受験する中で、自分の力の確信を持ち、これからも飛躍を続ける彼女に、島を出る高校生へのメッセージを聞いた。

「故郷を離れて新しい生活を始めるのは大きな不安があると思います。しかし私は今、この場所を第二の故郷だと思っています。皆さんの新しい毎日が充実し、心強い大切な居場所となり、成長していけるよう願っています。」



“ファッション”に関わるお仕事について

新しくデザインを企画していくファッションデザイナー、型紙を起こすパタンナー、スタイリスト、ファッションアドバイザー、雑貨デザイナーなど、ファッションのイマジネーションを形にする仕事です。BM学園では文化服装学院連鎖校として沖縄に居ながら東京と変わらぬファッションの学び&伝統を活かしたコラボレーションを行うことが可能です。少人数制も特徴のひとつです。

